

真冬の諏訪散策 そして 小海線の旅

平成 16 年 4 月に諏訪の御柱祭（おんばしらい）を見る機会を得た。しかも木落としをかぶりつきの席で見ることができ、一生の自慢話になるほどの感激を体験した。この日以後頭から離れなくなったのが、諏訪のもうひとつのビッグイベント「御神渡り（おみわたり）」。今年は寒さが厳しい冬なので、見る機会としては絶好かも・・・。

1 月中旬からインターネットで情報を調べ始めたところ、20 日過ぎには湖上の祭事も行われたようなので、Xデーを定めて宿と鉄道の手配に入った。

前後して関東地方の平野部でも二度の積雪を体験し厳しく寒い日が続く、期待はさらに高くなった。しかし、二月に入るとすぐに気温 16 度～18 度という異常に温暖な日が続く、逆に不安が深まるようになった。防寒用のオーバーズボンも買ったことだし、まずは決行。

平成 25 年 2 月 5 日（火）

天気は快晴、思ったほどには寒くない。通勤ラッシュのさなかに遊びに行く服装はちょっと目立つ。

JR 船橋駅に入った途端にアクシデント発生。かみさんの靴の底がはがれてパコパコ音を鳴らし始めた。近くのコンビニで接着剤や紐を買ってきて応急処置をしてホームに上がった。20 分ほど早めに来てしまったが、その余裕の時間が見事に役立った。本処置はこれから考えるとして、船橋発 6 時 57 分特急あずさ 3 号 松本・南小谷行に乗りこむ。持ってきた小さなニギリメシで朝食終了。

新宿を過ぎてさほどの混雑があるわけでもない。靴は車内で足をのせておいて接着効果を高める作戦とした。そして、上諏訪に着いたらお店を探して靴を買うことにしたが、店があるかどうかはわからない。行く手に絶えず見え続ける富士山は真っ白で迫力がある。トンネルを抜ける度に枯れ草色の山の向こうに白い山波が近付いてくる。これが冬の中央本線の楽しさだ。

甲府盆地に入ると白根三山を中心に南アルプスの雄峰が勢ぞろいし、盆地の中心を過ぎると八ヶ岳も登場する。盆地の西端を過ぎて釜無川に沿うようになると、線路は山の端を縫うように走るので、八ヶ岳や甲斐駒



達が車窓の右に行ったり左に行ったりして数々の額縁を展開してくれる。もうこれで旅が終わってしまっても良い位の素晴らしい眺めを楽しんだ。（左写真：携帯電話で甲斐駒をキャッチ）

中央線で最も高い所にある信濃境駅は残雪の中。贅沢な眺めを楽しんでいる内に下り坂をかけ下りようになり、茅野を過ぎて諏訪盆地に入った。

上諏訪 9 時 57 分、まずは靴屋探しに入る。観光案内所は御柱祭の時に世話になったが、かなり親切な対応だったことを記憶しているので尋ねて見ることにした。

「駅前の商店街にあった靴屋はもう大分前に閉店してしまった。介護用の靴を売っている店ならあるが・・・。

下諏訪の方が店は多いとは思いますが、靴屋さんはないわねえ。諏訪 IC の近くに大型店舗が沢山出来たのでそこへ行ってみれば・・・靴屋さんってあったかなあ？なかったら茅野の方が確実かもしれないわねえ・・・」。諏訪 IC 方面へは路線バスもないし・・・。

客待ちしているタクシーの運転手にも具体的に聞いて見た。

「諏訪 IC 近くに靴を売っている店ありますかねえ」と具体的に聞いて見た。

「靴ばかり売っている大型店舗がありますよ、お気に入りの物があるかどうかはわからないけど。行きましようか？買い物する間待っていてもいいですよ」

このタクシーに乗って問題解決に取り組むこととした。運ちゃんと世間話をしている内に妙案を思い付いた。せっかくタクシーでそこまで行くのなら諏訪大社の上社にも寄ってみよう。

靴専門の店（関東エリアでは見かけないが広域チェーン店）でタクシーに待ってもらって軽登山靴を購入。

その間メーターは止まっていて待機料金は付いていなかった。

諏訪大社上社本宮、今回の旅では交通の便が良い下社（下諏訪）だけを見る予定だったので、アクシデントが呼んだ好運ということになる。入口に並ぶ店の中から手頃な店を探して、後で昼食をすることにして荷物を預けて参拝を開始。入った所は北参道、足元は残雪ばかりかかなりの場所で凍結していて、迂闊に足を出せば転倒は間違いない状態。（右下写真）



南アルプスの山脈が諏訪盆地に着地しようとする尻尾のような山を背にして建っている。まさに諏訪を見渡すような場所である。立ててある御柱もさることながら、詣内に林立する樹木の太くて高くて立派なこと。



神楽殿・二の柱を通過して東参道からの道に合流し、奥へ奥へと入って行く。一部工事中で立ち入りできない所もあったがぐるりと一巡して大鳥居に戻り、荷物を預けた店に入って、天ぷらそばとおやきの昼食。

お店のおばさんに駅へ戻る交通手段を尋ねると、ミニバスが走っていて、今ちょうど良い時刻だと言うのでこれに乗ることにした。

よその国から来た旅人二人が乗って来たことを意識してか、運転手さんが優しく語りかけた。

「このバスはワンマンバスなので、下りる時にお金を入れて下さい。お二人分で300円になりますから、先に小銭を用意しておいて下さい」

ミニバスは幹線道路から離れた住宅地の間をくねくねと曲がりながら走り、諏訪湖の湖岸にある「すわっランド」まで行く。我々は上諏訪駅（諏訪湖口）で下車。散策に荷物は足手まといなので、宿に入って荷物を預けることにした。靴底が没する程度の積雪の中を注意深く歩いて。

宿（渋の湯）で身軽になり、さらにオーバースボンに身を固めて出発。まず最初の目的地は諏訪大社下社。上諏訪駅へ行き下り電車に乗り下諏訪へ。

駅前広場から北へ、国道20号線に出て右折すれば下社秋宮へ、左折すれば下社春宮の大門に行けるはず。と思っていたら、レンタサイクルの看板が目に入った。看板を見ると「電動アシスト付き自転車」と書いてある。自転車ならば、半日で春宮へも秋宮へも、そして湖畔へも行くことができる。ひとりの若者が借用手続きをしているのに続いて借りることにした。



国道20号線を離れて大社通りに入ると長い上り坂が待ち構えていた。しかし電動アシスト付きの威力は凄い、何の苦もなく秋宮に辿り着くことができた。上社本宮とは違って雪は片隅に少々だけで歩く所にはないし、凍ってもいらないので歩きやすい。二つの神社を比較して見ると、本殿の造りはほぼ似たような感じだが、こちらの方が注連縄が太く逞しく力強い感じがする。（左写真）

春宮への道はさらに長い上り坂になる。中山道から国道142号線（花見新道）に入りゆっくりと上って行く。信号などで一度止まってしまうと再スタートが大変かなと思いきや、さすがに電動アシストだけに坂道発進がとてもスムーズだ。



春宮は上りきった坂を僅かばかり下ったところにある。平成16年の御柱祭以来の来訪になる。後に山が控えていることで厳かさは秋宮に勝るものがあるが、上社のように雪や氷に覆われている所はなく歩きやすい。写真を撮りながら一巡して鳥居を抜けた。（右写真）

春宮から町の中心まではゆっくりとした下り道で、自転車の走りも快適である。下諏訪駅前まで戻り、観光案内所に入って御神渡りが見られる場所を尋ねることにした。資料を出して湖面上のどのあたりにどのように現れるのかを説明してくれたが、実のところ先月末から続いた関東以西の温暖な日が氷を融かしてしまったようで、「恐らく御神渡りはもう見えないでしょう」とのことだった。ついでに湖岸への道も教えてもらった。

線路を潜って湖岸へ一直線の道。諏訪湖は一面凍結して蠟色になっているが、岸边付近には融けている所も



目立った。海拔 759m、御神渡りが見えないにしても湖の全面結氷は充分見ごたえがある。(左写真)冷たい風が吹きつけてはいるが、晴れているので一ツ浜公園を西に折れて赤砂崎の突端まで行ってみることにした。わずかに霞がかかっている感じはするが、対岸まで見えるので、湖の大きさがわかっていい。諏訪湖は周囲が約 16Km あり、市民マラソンのコースとしては最適。歩く道の至る所にマラソン大会の距離表示や注意書きが残っている。今夜から雪が降るという天気予報を物語っているのだ

ろうか、八ヶ岳や北アルプスの方角は寒そうな雪雲が肩を怒らせるように覆いかぶさっている。

日が暮れる前にと、やや早めに宿（渋の湯）に入り温泉を楽しんだ。予報通り、床につく頃には雪が降り始めた。

平成 25 年 2 月 6 日（水）

諏訪は一面の雪景色になり、旅の雰囲気作りになった。しかもまだ少しずつではあるが降り続けている。

首都圏でも雪が降り、急いで帰ろうとすれば交通機関の乱れに巻き込まれてしまう可能性があるのでは、どこかでもう一泊してから帰ることにした。朝風呂、朝食を済ませてからじっくり検討の結果、小海線に乗って甲斐大泉の八ヶ岳ロイヤルホテルに泊って見ることにし、予約申し込み。

オーバースボンもはいて万全の備えで上諏訪駅へ。早くも特急あずさは運休の表示が出ている。長野県下ではこの程度の雪で列車が止まることなど考えられないのに、特急電車は、鉄道会社の本拠地がある首都圏の発想で早々とシャッポを脱いでしまったらしい。各駅停車の列車は何ら影響を受けることなく走っていた。上り電車に乗り、車窓の雪景色を楽しむ。八ヶ岳は雪雲の中、南アルプスも影すら見えず、楽しむ景色は沿線の野や畑や人々の動きだけ。信濃境までは緩やかな上りが続くが、昨今の電車は高性能でこの程度では悲鳴をあげない。1960 年代には、「ポ〜〜〜ッ」とひと声の後喘ぐような呼吸で上って行き、人情味があったが・・・。

信濃境からは「待ってました！」とばかりに快適に下り坂を走り、最初の駅が小淵沢。下車した数人が姿を消すと、雪だけの静寂な駅になってしまった。(左写真：雪の小淵沢駅)



小海線への乗り継ぎ時間は小一時間ある。「郷に入ったら郷に従え」ホームの中央部にある待合室で時間を潰す。夜行列車で着いて、小海線の発車を待つ間を過ごしたこの待合室には石炭のストーブがあったような記憶がある。今はエアコンが心地よい風を送り続けている。

駅の構内を散歩して見た。この駅は山の斜面に作られている。小海線と中央線の連絡架橋を渡って隣のホームへ行き、10mほど進むとホームの下へ下りる階段がある。これを下って山の斜面沿いにやや進むと改札口

があった。上諏訪から小淵沢までのキップを買ってきたが、小海線はワンマンカーなのであらかじめ甲斐大泉まで行き先変更したキップを用意しておいた方が得策と考え駅務室に入った。すると駅員は端末機を操作していくつかの画面を確認の上こんなことを提言してくれた。

「上諏訪→小淵沢のキップを上諏訪→甲斐大泉に変更するよりも、ここで下車して甲斐大泉まで買い直した方が安いですよ」。親切な助言に従って分割購入で一人当たり 30 円の節約。

11 時 19 分発小諸行、二両編成のディーゼルカーは轟音を上げて出発。小海線は中央線に沿って少しずつ離れながら高度も上げて行くので、轟音を上げなければ走り出すことができない。前述のように 1960 年代には、やや小さな蒸気機関車が息切れしそうな音でゆっくりゆっくり上って行った。

急坂を少しずつ上りながら右に大きくカーブして、さらに登って行くと雪に埋もれた樹林帯に入って行く。積雪に吸い込まれるような柔らかな枕木の響きも冬ならではの味わいである。ようやくペースをつかんで時々アイドリング走行もできるようになる頃に甲斐小泉駅に到着。ここまでで大分高度を稼いだので、所々で息抜きをしながら小さな上り下りを繰り返しつつ更に上って行くと甲斐大泉駅に到着。ここはもう雪野原

の真ただ中、比較的幅の広い道が一本まっすぐに高原を下っているだけで、他には何もない。店もあるがやってはいないし、どこかへ入って見ようと思っても何もありません。ディーゼルカーが走り去ると静寂だけが残った。

しばし駅の周囲の散策でも・・・という思いつきだったが、降り続ける雪の中で彷徨い歩くのも気乗りがしない。今宵の宿である八ヶ岳ロイヤルホテルに電話をして送迎車の世話になることにした。マイクロバスは15分ほどで迎えに来てくれた。一本道を下って、国道に出る少し手前で山腹を巻きながら少し上り返すとホテルに到着。乗ってしまえば僅かな道のりだった。



ロビーの喫茶でカレーライスとコーヒーで昼食、おかずは窓から見える雪景色。チェックイン後オーバースポーンをばいりて傘をさして付近を散歩して見た。(左写真:甲斐大泉の集落)ポツンポツンと建つ喫茶店や風変わりなお店は殆どが営業していない。アスファルトの道路は時々ブルドーザーが走ってきて除雪しているが、一段高い歩道は人が歩かなければ積もった雪のまま。気ままにぶらぶらしながら駅前まで行って戻って来た。雪は少しずつ小降りになり、暗くなり始める頃には星空も見えるようになってきた。

温泉と夕食を楽しんだ後は、浴衣の上に防寒具を着こんで、屋上の天体望遠鏡で天体観察。満天の星空と甲府盆地の夜景、薄らと姿を見せる八ヶ岳。望遠鏡など使わなくても数え切れないほどの星を見ることができる。オリオンの中心部にはあんなに小さい星が沢山あったのか・・・。「星の数ほど・・・」という表現は近頃死語になってしまったが、まさにこの景色ならぴったりする。観察指導員の方の説明と解説を聴きながら30分ほど堪能した。



平成25年2月7日

日の出を楽しもうと思い、早起きして再び屋上へ。徐々に色が変わっていく空、その光を受けていくつもの色に変わる八ヶ岳。釜無川に沿って雲が並んでおり、残念ながら南アルプス方面を見ることはできなかったが、甲府盆地の薄雲が消えるに従って富士が姿を現し始めた。東側の空も2500m位の高さに雲の帯があり、太陽が顔を出したのは7時を少し過ぎてからになった。日が出るにつれて茅ヶ岳が黒々とした図体で、「八ヶ岳に負けぬぞ!」と言いたそうに視界の主役に躍り出てきた。(右上写真:八ヶ岳ロイヤルホテルからの日の出)冷えた体を朝風呂で温め直してから朝食。食事の後は、昨日の雪とは打って変わって青空と日の輝きの中を散歩。道も畑も民家の屋根も眩しいような白さの広がりになった。美しさに魅かれて樹林に入って見たら、木の枝に積もった雪が融けて落下して直撃を受けてしまった。

今日は小海線の旅を楽しんで、小諸経由で帰ることに決定。ホテルのバスで甲斐大泉駅へ。

まず手始めに野辺山散策ということにして、甲斐大泉発10時14分に乗車。清里を過ぎてしばらくで山梨県から長野県に入る。JRの鉄道最高地点を過ぎてしばらくで野辺山駅に到着10時31分。JRで一番高い所にある駅で、海拔1345m。駅舎はモダン(?)になり、遊園地のように昔の面影はない。駅前広場に接する十字の道路、正面に八ヶ岳がドーンと構えていて、この景色だけは昔ながらのような気がする。

駅舎のドアを開けると、いきなり八ヶ岳下しの洗礼を受けた。雪野原と冷たく強い風、太陽の光などものともしない荒々しい寒さが待っていた。それでも駅の周辺に何かないだろうかと思散策を試みた。

店は閉まっているし、人通りはないしで立ち寄る所は何もない。駅の反対側に広大な高原野菜畑の中の一本道を歩いて見たら、畑の広がりの方こう側に天狗山と男山がやけに立派に立っていた。(右写真)

寒い上に見る所もなさそうなので、駅に戻り次の列車の時刻を確かめたら11時53分発となっていた。これを逃すとその次は二時間後なので、絶妙なタイミングだった。



野辺山発11時53分小諸行。野辺山を過ぎれば小海線は元気はつらつ、下り坂を駆け抜けるように走る。

次は信濃川上、そしてその次は佐久広瀬、長野県へ入ったことを感じる。そして佐久海ノ口・海尻・松原湖・小海・馬流、水に縁のある駅名が続くのも面白い。野辺山高原から下って行くと車窓の景色は激変する。線路のすぐそばまで迫る雑木林はなくなり、里山と谷津田と小川のせせらぎが登場する。覆いかぶさる雪の量も徐々に減少して、下界を感じさせる。時折乗り降りする高校生らしい集団、カバンとともにスケート靴を持っているのが印象的だ。

忽然と現れたコンクリートの架橋、横切る一直線の立派な線路、新幹線との乗り換えが可能な駅佐久平。駅前には首都圏のニュータウンに見られるようなどこよらの国を真似たような彩色の住宅地、大きく聳える商業施設。佐久の景色を大きく変えてしまった感じがする。

小諸には 13 時 29 分に到着。駅前の蕎麦屋で遅い昼食をとってから懐古園を散策。駅から歩いて行ける所にある観光地はありがたい。島崎藤村を感じながら小一時間の散策を楽しむ間中、浅間山を中心とした山並みが北から見下ろしているようだった。白く化粧をした山肌、浅間下しに雪煙りが舞う姿も冬ならではの景色



だ。(左写真)

小諸駅は旧国鉄時代の大きな拠点駅だった。夜行列車が停車することから 24 時間休まない駅だった。列車が入って来ると構内のアナウンスが響き渡り、駅弁や土産物を満載した売り子がホームを右へ左へと忙しく

動き回る。駅前には弁当屋や食堂が並び、元気な街だった。

平成 25 年の小諸駅前、昼間なのに静かだし、食事をできる店も数えられるほどにしかないし、土産物屋もごく僅かしかない。街角には人の姿も少なく、人口も減少している感じがする。

長野新幹線が開通したが、遙か南の佐久平に駅ができた。そして国鉄の分割民営化により、碓井峠を越える鉄道はなくなったし、残された軽井沢以西は民営化されて「しなの鉄道」と名を変えた。おまけに高速道路もできたりで、小諸は大都会からの客が立ち寄る街ではなくなってしまった。

帰りは「高速バスで一直線に・・・」と思いましたが、時の流れを肌で感じるべく「変わり果てた信越線」を味わいながら帰ることにした。

まずは「しなの鉄道」に乗って軽井沢まで行く (25 分 470 円)。軽井沢駅の駅前広場の一番はずれから出る「横川行のバス」に乗る (34 分 500 円)。横川駅から「信越線」に乗って高崎へ (30 分 480 円)、そして「高崎線」に乗り換えて上野へという難しい行き方になってしまった。

日本列島改造論に始まり国鉄分割民営化、新幹線網の整備などのいくつかの出来事が「信越線の変遷」や「一部の町の過疎化」をもたらしたようだ。佐久平という新しい街ができたことや新幹線が停まるようになって俄かに活気づいた上田のことを「功」と考えると、「功の影に罪あり」と思わなければいけないのかもしれない。実際にその町に住んでいる人々はどう思っているのだろうか。

あらためて旧来の信越線の現在の姿を整理して見ると、上野と高崎の間が高崎線、高崎と横川の間が信越線、横川と軽井沢の間は鉄道なし、軽井沢から篠ノ井までがしなの鉄道、篠ノ井から長野までが篠ノ井線、そして長野から新津までが信越線。

横川駅で夕食用に懐かしの釜飯を買って信越線高崎行に乗るとすぐに夕闇に包まれてしまい、上州の名だたる山並みがいっせいに切り絵を見せながら車窓を去って行った。電車はベンチシートでどうも弁当を食べる雰囲気ではない。高崎で上野行に乗り換えてからボックスシートを探して座ったが、同じボックスに赤の他人が一人、ノートパソコンを使って何やらお仕事に没頭している。深谷だったか、この客が下車したところで、夕食を開始。辛うじて、通勤客が乗って来る大宮までの間に食事を済ませることができた。

信越線の旅の象徴だったが、ちょっと高くて買うのには勇気が必要だった「横川の釜飯」。何十年ぶりかで食べたその味が、玄関をくぐるまで口の中に残っていた。

以上